Be an innovator! in sustainable

mobility



# "人とモノの移動"に 新たな価値を乗せて行く

## Top Message

三菱オートリースは、お客様・パートナーの皆様方に信頼され、選ばれ、そしてともに成長していける会社を 追求してまいりました。これもお客様をはじめ、整備工場、自動車メーカー、販売会社など全ての事業パート ナーの皆様方のご支援あってのことと心から感謝申し上げます。

現在、自動車業界は大きな変革期にあり、環境負荷の低減や人流・物流の効率化、安全性の向上、移動制約の解消などの社会的課題の解決が求められています。

なかでも、政府の戦略目標として、2035年までに国内における乗用車の新車販売で電動車100%の実現 が掲げられるなど、カーボンニュートラル達成に向けた環境車の普及は、業界全体の重要課題です。

斯様な状況の中、当社は2023年8月にサステナブルな社会の実現にこれまで以上に貢献できるよう、サステナビリティ基本方針を策定するとともに、事業活動を通じて優先的に取り組むべき課題として、5つのマテリアリティ(優先課題)を特定しました。

この5つのマテリアリティは、2030年を見据えて、従来の経済的価値の追求に加え、社会的価値・環境的価値を中長期的に向上させることを目的にしております。

当社はマテリアリティを当社の事業戦略や意思決定においての重要な要素として位置付け、これからも社会から求められ、そしてステークホルダーから選ばれる企業であり続けるために、全社一丸となってサステナビリティの取り組みをさらに推進し、新たな価値創出によって、よりよい社会づくりに尽力してまいります。



代表取締役社長 髙井 直哉

# "サステナビリティ基本方針"

# 及び"マテリアリティ"

## サステナビリティ基本方針



当社は、「"人とモノの移動"に新たな価値を乗せていく」という経営理念のもと、事業を通じて、優先して解決を図る社会的課題をマテリアリティとして定め、社会の持続的発展に対する貢献と三菱オートリースの中長期的な価値向上の両立を図るように事業を遂行する。

## マテリアリティ



当社は、人(=社員)を「価値の源泉」として 位置づけ、デジタルの活用やパートナーと の共創を「価値創出の基盤」と捉え、環境 的、社会的「価値創出」により持続的に成 長していくことで経営理念の実現をめざ します。

#### 各マテリアリティに関する説明

		マテリアリティ	マテリアリティの説明		
価値創出	I	<mark>地球環境</mark> に対する 真摯な取り組み	モビリティのライフサイクル全体を通じ、 移動手段における環境負荷の低減により、 ステークホルダーに対して新たな価値を創出する。		
	П	最適な"移動"の提供による 社会への貢献	モビリティサービス企業として、 社会が移動に求めるさまざまなニーズに対して幅広く 取り組むことで、ステークホルダーに対して新たな価値 を創出する。		
価値創出		先端技術・デジタルを 駆使した事業変革	次世代のモビリティサービスがデジタル化を起点に近展するなか、先端技術・デジタルの駆使による発想車換を価値創出の基盤とする。		
創出の基盤	IV	<b>パートナーシップ</b> による価値共創	多様化するニーズや変化が激しい事業環境において、 パートナーシップによるスピード感ある共創を価値創出 の基盤とする。		
価値の源泉	V	多様な <mark>人財</mark> が 活躍・成長できる 組織の実現	最大の経営資本を"人財"と位置づけ、企業価値の源泉 として、多様な価値観を持つ人財が集まり、活躍できる 組織を実現する。		

#### 経営理念とマテリアリティの関係性

#### 経営理念

"人とモノの移動"に新たな価値を乗せていく

#### 価値創出

地球環境に対する 真摯な取り組み 最適な"移動"の提供による 社会への貢献

#### 価値創出の基盤

先端技術・デジタルを 駆使した事業変革 パートナーシップによる 価値共創

#### 価値の源泉

多様な人財が活躍・成長できる組織の実現

#### ガバナンス・コンプライアンス

# "サステナビリティ"推進体制

## 企画部門長(サステナビリティ推進室担当)のコミットメント

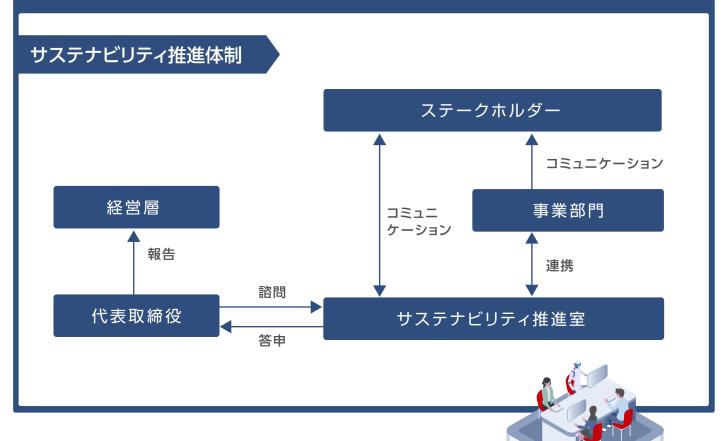
三菱オートリースは、クルマを安心・安全にご利用いただくことを第一に自動車リースを基盤とした総合車両管理を通じ、お客様への価値提供(創造)に努めてまいりました。

2023年度には、経済的成長に加え、地球や社会との共存共栄も企業が果たすべき社会的責任、との認識より当社は、2023年度に経営理念をもとに「サステナビリティ基本方針」を定め、サステナブルな社会をめざす上で欠かせない環境・社会・ガバナンスの3分野からなるマテリアリティを特定し、事業活動および社会貢献活動を実施しています。

さまざまなステークホルダーの皆さまに、当社の取り組みをより深くご理解いただき、 力を合わせて推進していくことで、サステナブルな社会の実現に向けて一緒に歩んで いきたいと考えています。

取締役 常務執行役員 企画部門長(サステナビリティ推進室担当) 大野 哲郎





# "環境"

当社は、お客様の"移動"に関わる"環境負荷低減"サービスの提供で、 脱炭素社会実現をめざしています。

"EVコンサルテーションプログラム"

# **EV 4 CHANGE**

関連するマテリアリティ

Ⅰ 地球環境に対する真摯な取り組みⅢ 先進技術・デジタルを駆使した事業変革Ⅳ パートナーシップによる価値共創



## **EV 4 CHANGE**

4 つの STEP で EV 導入から運用をフルサポートでご提案

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

測定・算出 🔁

分析・計画 🍱

選定・導入 🚙

運用・活用 &

GHG排出量の見える化\*1

分析シミュレーション・導入計画

環境車+充電環境パッケージ











EV 4 CHANGE とは

※1GHG(greenhouse gas)温室効果ガス

当社は、自動車に関する総合的なソリューションを提供するオートリース会社として、 お客様のさまざまな環境対応ニーズにお応えしています。

独自のEV コンサルテーションプログラム "EV 4 CHANGE" では、

STEP 1 GHGの測定・算出

STEP2 分析·削減計画

STEP3 環境車の選定・導入

STEP4 運用·活用

の4つのステップでお客様に最適なEVソリューションを提案します。

関連ページへのリンク:EVソリューション(http://www.mitsubishi-autolease.com/service/env/ev\_solution.html) 関連サイトへのリンク:EVコンサルテーションプログラム(https://mobitips.jp/service/ev)

#### ・2023年9月1日 モビリティの潮流を読む!2023を開催

持続可能で効率的な「移動」と「社会」の実現をパートナーシップで達成するために、将来のモビリティ市場の展望とビジネス機会創出のヒントについて、幅広い業界のみなさまに情報提供するイベントを開催いたしました。実施に際し、各界のトップリーダーにもご登壇いただき、環境やエネルギー、次世代モビリティに関する最先端の知の共有の場となりました。



#### 関連するマテリアリティ

- I 地球環境に対する真摯な 取り組み
- Ⅲ 先進技術・デジタルを 駆使した事業変革
- IV パートナーシップによる 価値共創







## ・2023年11月30日 グリーンモビリティフォーラムを開催

グリーンモビリティフォーラムとは、役員車や営業車として、電気自動車(EV)の導入を検討するお取引先様に自動車メーカーによる説明や試乗の機会を提供するイベントです。当日は、多くの自動車メーカーにご協力いただき試乗車4車種、展示車7車種をご用意、ご来場者はお取引先様約30社・およそ60名にのぼりました。各EVの走行性能を実際に体感いただくことで、今後の社有車EV切替の参考になったと好評をいただきました。

#### 関連するマテリアリティ

- I 地球環境に対する真摯な 取り組み
- IV パートナーシップによる 価値共創









# "社会"

## 地域社会との共生

当社は、モビリティサービス企業として、"安心・安全"や"環境への配慮"など、社会が求めるさまざまなニーズに幅広く取り組むことで、ステークホルダーに対して"最適な移動"を提供します。また、良き企業市民として、清掃活動をはじめ地域に根差した取り組みも推進しています。

#### 関連するマテリアリティ

Ⅰ 地球環境に対する真摯な取り組み

Ⅱ 最適な"移動"の提供による社会への貢献

Ⅲ 先進技術・デジタルを駆使した事業変革

₩ パートナーシップによる価値共創



#### ・地方自治体や官公庁へのEVリース推進

事業での貢献

公用車のEV切替をサポートし、地域の環境対策推進を支援しています。東京都世田谷区との事業では、2027年度までに公用車の半数をEV等、環境車に切替る予定です。

#### 関連するマテリアリティ

- I 地球環境に対する真摯な取り組み
- Ⅱ 最適な"移動"の提供による社会への貢献
- Ⅲ 先進技術・デジタルを駆使した事業変革
- Ⅳ パートナーシップによる価値共創







#### ・福祉車両の架装事業

#### 事業での貢献

オートリース業界で唯一、自社で福祉車両の架装工場を 保有しており、お客様のニーズにきめ細かく対応可能な 「セミオーダー福祉車両」を提供しています。

#### 関連するマテリアリティ

- Ⅱ 最適な"移動"の提供による社会への貢献
- Ⅲ 先進技術・デジタルを駆使した事業変革





#### リスクマネジメントサービスの提供

#### 事業での貢献

車両に関する様々なリスクを可視化し、お客様のリスクマネジメントをサポートしています。安全運転セミナーの開催やテレマティクス活用で、地域社会の安全・安心に貢献します。

#### 関連するマテリアリティ

- Ⅱ 最適な"移動"の提供による社会への貢献
- Ⅲ 先進技術・デジタルを駆使した事業変革
- Ⅳ パートナーシップによる価値共創







# "社会"

地域社会との共生

#### ・本社オフィスビル付近の清掃活動への参加

#### フィランソロピー活動での貢献

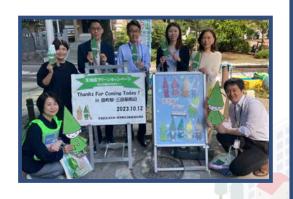
東京都港区主催の清掃活動「芝地区クリーンキャンペーン〜路上喫煙ゼロのまち!〜」に参加しました。働くまちに感謝を込めて、清掃活動を継続します。

#### 関連するマテリアリティ・・・・・・・

I 地球環境に対する真摯な 取り組み







#### ・本社オフィスビルが主催するイベントへの参加

# 本社オフィスビル主催の、地域住民向け夏祭りイベント「PIATA夜MATSURI」に参加しました。当社は、社有車リーフ(EV)とパワームーバー(給電器)をイベントに使用し、屋台やDJブースへの給電デモを実施しました。地域住民の方々に"走る電源"としてEVを認知いただく良い機会となりました。

#### 関連するマテリアリティ

I 地球環境に対する真摯な 取り組み





#### フィランソロピー活動での貢献







# "社会"

## 人的資本

当社は、"人財"が価値創造の推進力となり、当社の良き企業風土醸成にとって欠かせないもの、企業価値の源泉と捉えています。多様な価値観を持つ人財が集まり、活躍できる組織を実現すべく仕事と家庭を両立できる支援体制として、短時間勤務、フレックス勤務、テレワーク勤務制度、育児休職からのスムーズな職場復帰サポートの導入など、職場環境の整備に努めています。

性別や年齢を問わず、全ての社員が能力を十分に発揮できるよう、D&I (ダイバーシティ&インクルージョン)\*・女性活躍推進にも取り組んでいます。また社員は、それぞれが価値創造力を磨き、持続的に成長し続ける「自立型人材」であれるよう、自己研鑽に励んでいます。

※多様性・包括性を取り入れて公平な機会のもと、多様な人材が互いに尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念

#### 関連するマテリアリティ









関連ページへのリンク:女性活躍推進/人材マネジメント(www.mitsubishi-autolease.com/company/woman.html)

#### ・MAL-WAY プロジェクト

社員が主体となって「MALの戦略的企画案」を立案し、実際に取り組むプロセスを通じて「自立型人材」の育成を目指したプロジェクト型研修を実施しています。希望者から選抜されたメンバーが、約半年かけて新規事業や新戦略などを立案し、最終的には経営陣にプレゼンテーションを行います。実際に事業計画に組み込まれたプロジェクトも存在しています。

#### 関連するマテリアリティ

Ⅴ 多様な人財が活躍・成長できる組織の実現







#### •D&I研修

多様な人材が活躍し、成長しつづけるためには、心理的安全性の高い職場づくりが重要です。その実現に向け、人事部門とサステナビリティ推進室が連携し、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)研修を実施しています。社内インターンシップ社員2名が、無意識の偏見への気づきや対処、実践についてクロストークする研修動画を作成し、全役職員が受講しています。

#### 関連するマテリアリティ

Ⅴ 多様な人財が活躍・成長できる組織の実現



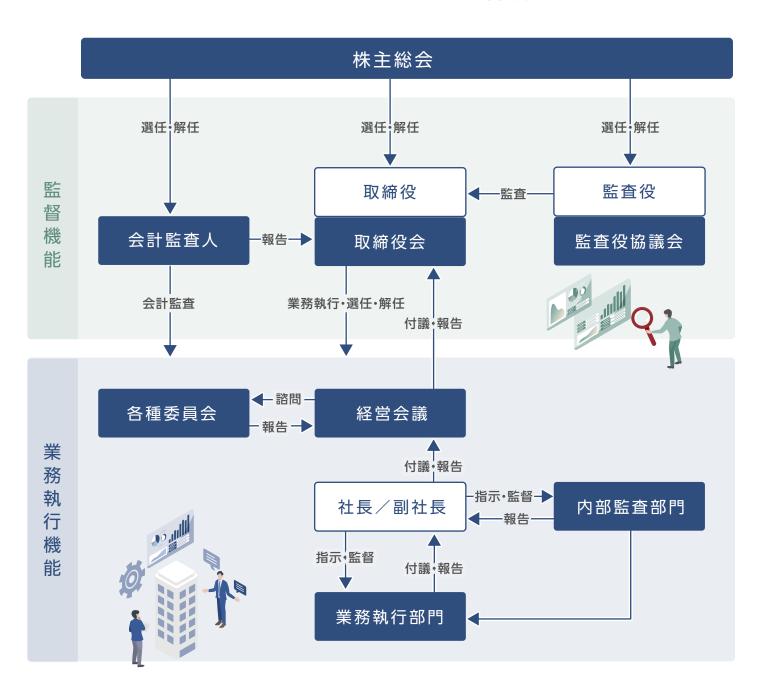


# "ガバナンス"

## コーポレートガバナンス体制

当社は、経営層の独善的判断を排し、ステークホルダーの利益を守るため、予め定めた重要事項については 経営陣をもって構成する会議体にて意思決定を行っています。また、専門性の高いテーマについては、テーマ 毎に適した委員もって構成する委員会にて議論し、その内容は経営会議に報告することで経営陣に共有して います。

## コーポレートガバナンス体制



# "ESGデータ"

## 環境関連データ

#### ■エネルギー使用量関連データ

(年度)

項目	2021	2022	2023	
[単位:0] Scope1 社有車のガソリン使用量*1	_	32,190	74,915	
【単位:kwh】 Scope2 電力使用量*2	1,080,983	1,038,932	1,047,973	

#### ■その他使用量関連データ

(年度)

項目	2021	2022	22 2023		
【単位:kg】 廃棄物発生量*3	20,706	17,692	20,855		
【単位:kg】 紙使用量** <sup>3</sup>	17,046	16,885	17,729		

#### ■社用車関連データ

(年度)

項目		2021	2022	2023
年度毎の社有車入替・増車台数		15	19	27
	一 うち、電動車台数	0	2	14
	— (BEV)*4	0	2	11
	— (PHEV)*5	0	0	3
	— (FCV)*6	0	0	0
社	- 有車入替・増車台数における電動車比率	0%	11%	52%

※1 2022年度分は、旧三菱オートリース分での使用量 ※2 旧三菱オートリース分での使用量 ※3 旧三菱オートリース本社分での使用量

## コラム

#### 社有車の100%電動化をめざしています

当社は、全国の拠点で社有車の電動化を進めています。2020年度の3台\*から、2023年度には23台まで拡大しました。実使用により電動車の性能を理解することで、お客様の用途や走行環境にマッチした電動車の提案に繋げています。ハードルが高いと言われるビル賃貸駐車場への充電器設置も、自らビル管理会社や設置工事会社と交渉し、お客様での社有車電動化をスムースに進められるよう、ノウハウを積み重ねています。

※旧三菱オートリース分と旧三菱HCキャピタルオートリース分の合算値

<sup>※4</sup> 電気自動車 ※5 プラグインハイブリッド自動車 ※6 燃料電池自動車

# "ESGデータ"

## 社会関連データ

(年度

	項目	2021		2022		2023
		MAL*	CA*	MAL*	CA*	
	従業員数	782名	274名	791名	278名	1,079名
	うち男性	485名	201名	490名	203名	702名
	うち女性	297名	73名	301名	75名	377名
	管理職者数	147名	62名	138名	64名	200名
	— うち男性 — うち男性	144名	61名	135名	62名	195名
	うち女性	3名	1名	3名	2名	5名
平均勤続年数		15.0年	19.0年	15.2年	19.8年	16.5年
年次有給休暇の取得率		64.5%	63.3%	72.0%	66.4%	69.4%

※ MAL:旧三菱オートリース CA:旧三菱HCキャピタルオートリース

